

## 基本計画(5) 『地震や災害に強い安全なまちづくりを進めていきます』

### 1. 目指す姿

「安全・環境 100 年の基本計画」の都市整備  
などみんなで震災対策に取り組むまち  
一人の死傷者も出さない安全と安心のまち

### 2. 指標

### 3. 現状と課題

阪神淡路大震災で外材・芯なし木造建築などの倒壊圧死で多くの人の命が奪われました。箕面では、住宅の倒壊で犠牲者もあり避難所も開設されかかってない経験をしました。その後耐震貯水槽や避難箇所、ライフラインの対策も行なわれています。住宅耐震調査やその対策も進められる一方で、構造線付近での新住宅建設も後を絶たず、急傾斜地や軟弱地盤の付近にも住宅開発が行なわれて、自己責任としています。

国内産の芯持ち柱より芯なし外材や輸入住宅が進められています。耐用年数をこえ劣老朽化対策も大きな課題で、水道や電気、ガスなどの耐震化、防災拠点や学校、住宅の耐震化も急がれ、救助消防活動など消防力の法定配置不足の解消も必要です。

最近、「上町断層揺れの大きさは、阪神大震災の二倍以上」の新予測が発表され、その被害想定を基に一層安心安全な地震に強いまちづくりへ、箕面市災害予防条例を制定し震災予防を進めます。

そのため、震災に強いまちづくりのために地震に弱い断層帯や軟弱地盤地域をグリーンベルトやみどりの空間とする「安全・環境みのお 100 年基本計画」を市民参加で確立し、大事な事業として市民、事業者、行政の協働で震災拡大の要因をなくし、耐震対策をすすめる、安心安全な街づくりを進めます。水道、ガス、電気などライフラインの耐震化、災害への万全な備えを図ります。

地震「ハザードマップ」を充実し、地震災害から死傷者なくするため、地域から地震対策の点検活動を市民、事業者の協働ですすめます。共助力の地域防災を高め生活幹線道路や細街路は、地震時の建築物の窓ガラスや看板等落下物による危険防止を進めます。木造建築には地震に強い芯持ち柱を奨励し、林業の活性化となど、市民、事業者、行政の協働を進めます。

### 4. 取組・役割分担

#### (1) 市民等が取組むこと

- ・近所で誘い合いや町内会、PTAなど様々なレベルで、点検・調査。

- ・地域防災計画を読み、避難所までいく通りもの避難経路を歩いてみる
- ・緊急貯水槽と飲用水確保,備蓄食料や床は,毛布等詳しく確認。
- ・レスキュー隊は何人いるのか、救助工作車・使えるクレーン車等いざのとき動かす事や民間業者の協力体制など救急体制の点検
- ・構造線・断層や軟弱地盤など危険な地盤を知っておきます
- ・住宅耐震点検と対策や家財転倒の対策、割れたガラス怪我をしない底厚履物を配備
- ・安否確認が早くできるように日頃から広域避難場所や公園を事前に決めておく。
- ・助け合いによる災害弱者への対策をすすめ,一つでも二つでも大切な命を救う体制整備

## (2)市民等、行政が協働で取り組むこと

- ・地域防災計画充実のためには、震度七の想定をすべての出発点にします。
- ・年齢構成や町丁目別の危険度を考慮した被害想定と災害弱者の救助共助。
- ・窓ガラスや看板等の落下物を危険物の解消で避難路を守り誘導力を高める
- ・地震災害対策の啓発と相談窓口を開設し支援策など促進する。
- ・ライフラインの耐震化を促進し住宅耐震点検と対策の支援を高める。
- ・災害時の食料、日用品の供給に関し、コンビに等との協定締結を進める。
- ・医師会、市内の病院等の連携による救護体制の整備を進める。

## 5 . 個別案件に関する提言

### (1)「想定震度七の安全・環境みのお 100 年の基本計画」

災害に強い都市基盤の整備 地域防災計画の充実  
耐震化の促進 消防力の充実と消防水利の整備

### (2)防災拠点等の施設の強化と避難路の整備

防災拠点、避難所の整備・充実  
備蓄施設の整備・充実 避難路危険箇所の把握と排除

### (3)災害への備えの充実

市民事業者等の防災行動力の向上。消防団,地区消防隊,防災会の組織強化  
備蓄物資の充実と分散備蓄の推進。 食料・飲料水供給体制の確立  
ライフライン施設の安全化。 医療、救護体制の整備

## 6 . まちづくりの効果

安全安心のまちづくり議論が高まり震災対策が進みます  
地震に強い芯持ち柱の木造建築が進み林業の活性化(国内産 20%を高める)